



# 脚本 生者に告ぐ



[http://unohirotest.mydns  
.jp/hiroshi/cgi/top.pl](http://unohirotest.mydns.jp/hiroshi/cgi/top.pl)

karasuno10

弁護士

生者に告ぐ、死者の言葉

鳥野 博史

人物

誉田麗子 (28) 弁護士

羊谷若葉 (26) 被告人、画家

平貴之 (35) 検察官

湯山平次 (50) 裁判官

甲斐清彦 (18) 麗子の助手

学生時代の誉田麗子は生真面目でガリ勉。彼女がおしゃれをしたりする事はない。大学時代、友人に彼氏を取られて、麗子は勝利にこだわるようになる。司法試験を合格して、弁護士デビュー。おしゃれでできるスーパーエリートの弁護士に生まれ変わる。法律事務所に勤めて翌年、根拠のない自信を元に、独立して誉田法律事務所を設立する。麗子は高飛車で、営業下手なので事務所は貧乏になつていく。少ない仕事のうち、裁判で勝利し続け、事務所の知名度をあげるしかない。助手の甲斐清彦と二人だけの事務所で今日も凶悪犯罪に関わる依頼人を弁護する。

今回、麗子は画家の羊谷若葉の弁護をする。アニメーション作家、大神悟志の家で火事が起こり、大神は死亡。若葉は火事の当日、大神の肖像画を描いている。決定的な証拠がないまま、裁判の最終局面、若葉への質問が終わろうとしていた。人為的な火事である事を知ってから、若葉は親指の爪を噛んでいる。

① 地方裁判所・法廷

プロジェクトとスクリーンが設置されている。弁護人席に<sup>ほまれだれいこ</sup>誉田麗子（28）。裁判長の席に座る<sup>ゆやまへいじ</sup>湯山平次（50）。証言台に立つ<sup>ひつじたにわかば</sup>羊谷若葉（26）。<sup>たいらたかゆき</sup>檢察官席の平貴之（35）。

平「次に、動機についての質問です。今から流すのは、被害者の最期の作品です」

スクリーンに映し出される映像、ベッドに寝る狼の元に羊がスープ皿を持ってくる。羊と狼、スープを飲む。

狼と羊が家の窓から星空を見あげる。

狼と羊、握手する。

図面をひく狼と、宇宙船を作る羊、画面右下、“<sup>ゴゴ</sup>”の文字。

平「宇宙を目指す狼と羊。途中、羊と狼は殴り合いの喧嘩になります」

スクリーン、宇宙船と家の間に宇宙服の狼と羊。家にしがみつくと羊をひき剥そうとする狼。狼と羊、殴りあう。

スクリーン、額に絆創膏を張った狼、宇宙船を操縦する。宇宙船に隕石が衝突、爆発する。

平「リアルな作風が特徴である被害者にとって珍しく、ノンリアルな作品です。しかし、狼や羊は実際の誰かを模している、とも考えられませんか？」

平、親指の爪をかむ若葉を覗き込む。

麗子、立ち上がる。

麗子「異議あり！ 映像はあくまでフィクション

ヨンであり、根拠として通用しません」

湯山「検察官、どうですか？」

平「被害者が死の直前に作った映像です。同じ作家としての見解を知るため被告人の経

験を尋ねる質問です」

湯山「異議を棄却します。答えて下さい」

若葉「狼は彼で、羊は私……だと思えます」

スクリーン、雪の中で起き上がる狼、

目を見開き、炎を吐き、地団駄を踏む。

若葉、目を見開く。

スクリーン、民家の前で倒れる狼。民家の戸が開き、光が狼を照らす。暗転。若葉、指を口から離し、口を引き結ぶ。

平「映像は以上です。狼と羊、被害者とあなたは口論になった——」

若葉「私です。私がやりました」

平と湯山、若葉を見る。

麗子「異議あり！ 証言に根拠がありません！」

平「異議あり！ これは自供です！」

湯山「被告人、自供と解釈して良いですか？」

若葉「……はい」

麗子「い、異議あり。待ってください！」

湯山「異議を棄却します。弁護人は静粛に」

麗子、驚愕の表情。

## ② 同・控え室

床に倒れるパイプ椅子。

パイプ机には証拠品の書類が置かれている。俯いたままソファに腰掛ける若葉の前に立つ麗子。

麗子「話が違うじゃない！」

若葉「私なんです。全てわかりました！ だって、彼はあんなにも私を恨んでた！ 検察官の方だって言っていました。火事は人為的なものだって！ 私じゃないなら誰がしたの？ 彼自身よ！ 自殺したの！ じゃ、自殺に追い込んだのは誰!? 私よ！ 彼を殺したのは私！」

麗子「真実は、誰にもわからないわ！」

若葉「真実!? 麗子さんの言う事、嘘ばかりじゃない……私は彼が好きなのよ」

若葉、へたりこむ。

麗子「そう。でも……残念ね。それでもこの裁判、私は勝つわ！」

麗子、乱暴に床のパイプ椅子を立てて座り、机に書類を広げる。

麗子が机の上の書類をにらみつける。

若葉、とぼとぼと出て行く。

麗子、机をたたき、頭を抱える。

麗子、書類をめくっていく手を止める。



証拠品の書類、映像の一画面、図面を  
ひく狼と、宇宙船を作る羊、画面右下、  
"Lion"の文字。  
麗子、書類を見ながら立ち上がる。麗  
子、勢いよく書類をめくる。  
証拠品の書類、映像の一画面、民家の  
前で倒れる狼。

### ③同・法廷

平、スクリーンの前に立つ。スクリー  
ンに映し出される論告要旨、1、被告  
には放火の機会がある。2、被告には  
放火の動機がある。

平「最後に被告人の刑について。被告人を懲  
役7年に処するのが相当です。以上です」

平、検察官席に戻る。

湯山「では弁護人、弁論をどうぞ」

弁護人席の麗子、書類を片手に立ち上  
がり、傍聴席に座る若葉を見る。  
若葉、俯く。

スクリーンに弁論要旨が映る。

麗子「みなさん。羊谷さんは大神さんの家を放火した犯人ではありません。羊谷さんは無罪です。なぜなら、①羊谷さんには犯行の機会がない。②動機も……」

麗子、書類を机に置く。

麗子「証拠の映像には不自然な点があります」  
スクリーンには、凶面をひく狼と、宇宙船を作る羊、画面右下“コロ”の文字が映る。

麗子「先ほどの映像の一場面です。右下に映像の最後を示す“FIN”の文字があります。なぜ映像の途中なのにこの文字があるのでしょうか？ 表記が正しいなら、映像が終了するはずですよ。つまり、本来の映像は、前半と後半が逆だったと考えられます」  
平「異議あり。本件とは無関係です」

麗子「先ほど、検察側は、彼の遺作を動機の根拠としたはずですよ」

湯山「異議を棄却します」

麗子「では、順序を正した映像をご覧ください」  
麗子、スクリーンを見る。

④スクリーンの映像

家の窓から夜空を見上げる狼と羊。

家で、凶面を引く狼、宇宙船を作る羊。

家と宇宙船の間に、宇宙服を着た狼と

羊。家にしがみつくと羊を、引き剥がそ

うとする狼。狼と羊、なぐりあう。

額に絆創膏を張りつけ、一人で宇宙船  
を操縦する狼。

隕石の衝突により、宇宙船が爆発する。

毛がやけどげた狼、雪道に倒れている。

狼は体を起こし、鼻水を垂らしながら  
吹雪の中を歩く。

地団駄を踏む狼、口から炎を吐く。

狼、民家の前で倒れる。民家の戸が開  
く。光が雪の積もった狼を照らす。

麗子の声「ここからが本来の後半です」

狼、家のベッドで目を覚ます。ベッド

脇に大きな窓がある。

羊、二つのスープ皿を持って来る。

スープをすする狼と羊。

狼と羊、窓から夜空を見上げる。

狼と羊は顔を見合わせる。

狼と羊、握手する。

ベッドで図面を引く狼と宇宙船を作る

羊。画面右下に“コロ”の文字

### ⑤ 地方裁判所・法廷

若葉の頬を涙が伝う。

麗子、弁護人席に立っている。

湯山「なるほど、筋が通ります。しかし、弁

護人自身も言ったとおりフィクション。動

機の根拠とはなりません」

麗子、うなずく。

麗子「自供を除き、この事件では、羊谷さんが有罪であると言い切れる証拠はない。刑事事件ではそのような疑いがある以上、羊谷さんを有罪とすることはできません。弁

護人は被告人の無罪を主張します」

麗子、若葉を見る。

麗子「大神さんは自殺じゃないの。以上です」

呆然とスクリーンを見つめる若葉。

スクリーンには、ベッドで凶面を引く

狼と宇宙船を作る羊が映っている。

湯山「では被告人は証言台に立ってください」

若葉、証言台に歩く。

湯山「審理の最後に、言う事はありますか？」

呆然とする若葉。

麗子と平と湯山、若葉を見つめる。

若葉、涙でくしゃくしゃの顔。

若葉「私は嘘をつきました。大神さんと無関

係と……本当は、大神さんとは親友なのに。

誓います！ 私は放火してません……」

若葉、証言台に突っ伏す。

湯山、頷く。

湯山「これより評議に移るため、閉廷します」

麗子、椅子にもたれかかる。

⑥安田ビル・外観

三階の窓に、大きく誉田法律事務所の  
擦り切れた印字がされている。

⑦同・誉田法律事務所

若葉、おそるおそる頭を下げる。

若葉「あの……ありがとうございます」

麗子と甲斐清彦（18）、ソファセット  
で若葉と向き合っている。麗子の横に  
はカンバスが立てかけられている。

仏頂面の麗子。笑顔の甲斐。

若葉「……彼は私の事を恨んでるでしょうか？」

麗子「知らないわよ」

若葉、俯いたまま、力ない笑顔。

麗子、カンバスを机に置く。

麗子「これは、あなたに向けられた笑顔よ」

カンバス、男性が微笑している絵。

若葉、目を見開く。

麗子「自信を持ちなさい」

若葉、カンバスを抱きしめて、頷く。

著者HP：[鳥野の箱庭](#)

